

TV 報道検証【報道特集】 報告書

テレビ局：TBS	番組名：報道特集	放送日：2018年12月15日
出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、日比麻音子		
検証テーマ：オープニング、COP24 が難航、中国によるカナダ人拘束、拉致問題シンポジウム 【特集】土砂投入と沖縄県民の思い		
報道トピック一覧 <ul style="list-style-type: none"> ・ COP24 が難航 ・ 東名高速で器物損壊で送検、煽り運転の可能性も ・ 富山市で国道沿いの店のガラスが割れ中で男性が死亡 ・ 中国によるカナダ人拘束 ・ 拉致問題シンポジウム ・ 北海道胆振東部地震から 100 日を迎え厚真町で慰霊式 ・ JR 呉線が全線で運転再開 ・ 年賀状の受付が始まる ・ 埼玉県深谷市で橋桁が落下しダンプカーを直撃 ・ 千葉県鎌ヶ谷市で父親の遺体を五ヶ月間自宅に放置した疑いで 42 歳の男性を逮捕 ・ 東京都世田谷の代官屋敷が一時閉鎖 ・ 【特集】土砂投入と沖縄県民の思い ・ 【特集】ヤングケアラーが直面する現実 ・ スポーツ報道 		
放送法第 4 条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨 <ul style="list-style-type: none"> ・ オープニング：結論→特に問題なし 番組の冒頭で金平キャスターが「ええ、あなた方に寄り添っていきます、と言われて握手をした直後にその相手からいきなり平手打ちを食わされたらどんな思いがするのでしょうか、沖縄の辺野古新基地建設をめぐる国は昨日、海への土砂投入を強行しました。今日の特集でお伝えします。」とコメントしていた。 このコメントに当てられた時間は 18 秒で、放送法上は特に問題は見られなかった。 ・ COP24 が難航：結論→特に問題なし ポーランドで開かれている COP24 では地球の気温上昇を産業革命前から 2 度以下に抑えるとするパリ協定の具体的なルール作りが行われているが最終日の現地 14 日に合意に至らず延長して 15 日も話し合いが続いているとのこと、ルール作りを巡る交渉が難航しているのは先進国と途上国の間で主張の隔たりが大きいため温室効果ガスの削減目標を更新する時期や期間などで一部の項目については既に今回の合意が見送られていて、ぎりぎりの折衝が続けられ最終的な合意は今の所日本時間午後八時頃になる見通しであるとのことが伝えられた。 このトピックに当てられた時間は 62 秒で、放送法上は特に問題は見られなかった。 ・ 中国によるカナダ人拘束：結論→特に問題なし 		

アメリカとカナダは 14 日にワシントンで外務防衛閣僚協議を行い中国が拘束しているカナダ国籍の男性二人の早期開放を引き続き求める方針で一致したとことが伝えられると同時に、トランプ大統領は中国から貿易面での譲歩を引き出すためにはカナダに対し中国の通信機器大手ファーウェイ副会長の身柄の引き渡しを求めない可能性を示唆しているもののポンペオ長官は会見で引き渡しをめぐる手続きは進行していると話したとのことおよびカナダのフリーランド外相も容疑者移送は政治化されたり他の問題の解決に使われるべきではないとしているとことが伝えられた。このトピックに当てられた時間は 87 秒で、放送法上は特に問題は見られなかった。

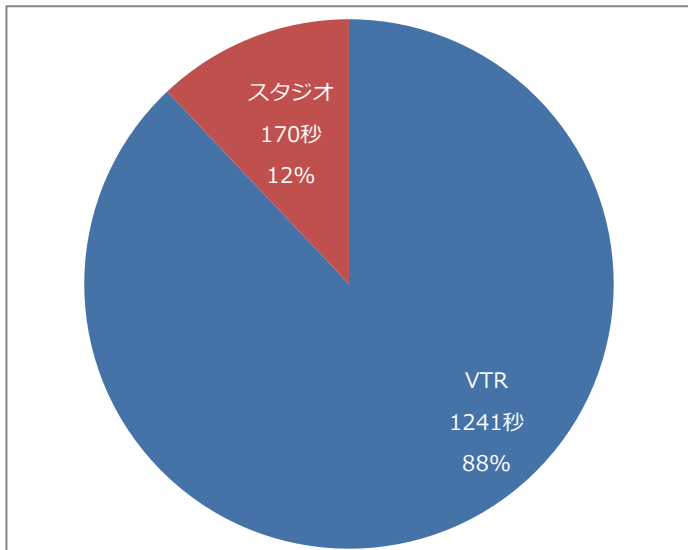
・拉致問題シンポジウム：結論→特に問題なし

北朝鮮の人権侵害問題について啓発週間に合わせて開かれた政府主催の国際シンポジウムで菅官房長官は「正念場を迎えていると思います。皆様の声が一層大きくなることは拉致問題の解決に向けた力強い後押しとなります。」と拉致被害者の一日も早い帰国に向けて取り組む姿勢を改めて示し、拉致問題は国の責任で解決すべき問題だと決意を示した上で同時に基本的人権の侵害という国際社会全体の問題でもあると述べ、政府として各国に協力を要請している現状を伝えたとことが伝えられた。また、シンポジウムには北朝鮮におよそ一年半拘束され解放後に死亡したアメリカ人大学生オットー・ワームビアさんの父親も参加し「息子オットーは生きていれば一昨日 24 歳になっていたはずです。拉致問題の解決の道筋を探っていきたい。」と拉致問題解決に協力したいと話したとことが伝えられた。

このトピックに当てられた時間は 73 秒で、放送法上は特に問題は見られなかった。

・【特集】土砂投入と沖縄県民の思い：結論→他放送日との総合的判断が必要

沖縄の辺野古基地建設のために土砂投入が始まったことを承けて、沖縄の人々への取材を行った VTR が特集で取り上げられていた。この特集に当てられた時間は秒で、VTR とスタジオでのやり取りに大別され、時間配分及び比率は以下の通りであった。



VTR は以下に朱記した 3 つの部分に CM で区切られていた。

【VTR1】

ナレ「重機によって、海へと押し込まれる土砂。アメリカ軍普天間基地の移設計画を巡り、国は昨日、辺野古沿岸部の海域で土砂の投入を開始し、埋め立て作業に着手しました。」

デモ隊「政府の横暴に負けるな。海を返せー」

ナレ「現場近くの基地のゲート前では、移設に反対する市民らが激しく抗議しました。」

沖縄県民「何から何までめちゃくちゃなことをやって、もうごり押しで基地を造ることに絶対許せない。」

沖縄県民「こんなことで絶対にあきらめません。沖縄の海を壊すようなことは許せません。」

ナレ「沖縄県の玉城知事は、強い言葉で批判しました。」

玉城知事「国が県のこの要求を一顧だにすることなく、土砂投入を強行したことにに対しては私は激しい怒りを禁じえません。」

"ナレ「一夜明けた今日、」

野沢周平アナ「名護市辺野古の工事現場です。昨日に続き、土砂の投入作業が行われていて、今日はクレーン車も使って石材が海に投下されています。」 "

ナレ「クレーン車も投入して、埋めたてが急ピッチで進められました。現場で抗議を続ける人を訪れた玉城知事は、」

玉城「国がやっている暴挙に対して、本当の民主主義を求めるといふ私たちの正しい道なり、正しい思いは全国の皆さんとも共感しています。我々は絶対にあきらめない。勝つことは諦めないことです。みんなでその気持ち一つにして頑張っていきましょう。うちなーのみなさんよまけてはないであんぐあわ」

"デモ隊「強行やめろー。」

ナレ「示され続ける民意を顧みず、先鋭化する国の強硬な姿勢に沖縄県は、どう対応するのかそして世論はどう動くのでしょうか。」 "

ナレ「沖縄で抗議の声が上がる一方、北海道を訪問中の、岩屋防衛大臣は、今日陸上自衛隊と、アメリカ軍が行う最大規模の共同演習を視察しました。辺野古への基地移設については、日米同盟のためではなく、日本国民のためだと述べ、改めて理解を求めました。」

岩屋防衛相「普天間の危険性を除去する方法はですね、辺野古、移設以外にないというのが、政府・防衛相の考えでございますので、」

ナレ「岩屋大臣は、日本の守りの最前線は、南西地域であり、この地域の抑止力を減退させるわけにはいかないと強調。日米同盟の抑止力を維持したうえで、沖縄の負担を軽減していくとしています。」

【VTR 2】

ナレ「沖縄県、名護市辺野古に広がるサンゴ礁の海。」

金平「ちょうど今、トラックが入ってきたしたけれども、あそこで土砂を今下ろすところですね。」

ナレ「昨日、午前 11 時ごろ、ついに土砂が投入された。アメリカ軍普天間基地の返還合意から 22 年。大きな節目を迎えたこの日、沖縄の人たちはどう受け止めたのか。」

"男性「早く、この戦いも終わってほしいですね。」

女性「子や孫にさ、やはりつらい思いをさせたくないという思いがあるので、おばあたち頑張ってるつもりです。」

【VTR 3】

"デモ隊「違法工事はやめろー」

ナレ「1620 日。これは辺野古の新基地建設に反対する人々が、この地で座り込みの抗議活動を続けている日数だ。」 "

ナレ「1995 年、アメリカ兵による少女暴行事件をきっかけに、反基地感情が高まり、翌年、日米両政府は、世界で最も危険といわれる普天間基地の返還で合意した。」

ナレ「その移転先として決まったのが、辺野古だった。基地の是非などが争点となった 9 月の知事選では、翁長前知事の遺志を継ぎ、新基地建設に反対する玉城デニー知事が、誕生。」

ナレ「しかい政府側は、基地建設を推し進め、今週、辺野古に土砂を投入することを決めた。」

"ナレ「これに翁長前知事の妻、樹子さんは」

樹子氏「ありえないと思えますよね。こんだけね、県民がね、必死になってね、声を上げて、もう体張って頑張っているのに、それをまるで見えないみたいにこの沖縄県民 140 万県民のね、顔がたぶん政府には見えていらっしやらない。」 "

ナレ「辺野古への移設計画は、護岸で囲まれた沿岸部を 2100 万立方メートルの土砂で埋めたと、V 字型の滑走路を建設するというものだ。」

金平「エー辺野古を埋め立てるために投入される土砂を積んだ運搬船ですね。えー目の前の小倉湾に停泊していますけれども、その運搬船から台船にえー土砂を移し替える作業ってのが、今目の前で行われています。」

金平「えーかなりの量の土石が、すでに台船の上に山積みになっています。」

ナレ「辺野古に投入される土砂は名護市安和にある棧橋から搬入される。棧橋を所有するのは、民間企業の琉球セメントで、建設作業にもかかわっている。」

ナレ「今週、その棧橋周辺を訪れると」

金平「今も青いブルーシートにかかったまま、土砂が見えますけれども、今、嚴重な警戒態勢が敷かれていてですね、えーガードマンがずっと警備にあたってますけれども、実はこれですね、えー有刺鉄線なんですけど、これ普通の有刺鉄線とは違って、まあこういうような非常に鋭い剃刀の刃のような刃がついた有刺鉄線が張られていたということで、」

ナレ「この有刺鉄線は、軍事施設で使われることが多い。今月初めまで、歩道側にも張り巡らされていたが、周辺住民から危険性を指摘する声が上がって、歩道に面している部分は、ほぼ撤去された。この有刺鉄線について、1 琉球セメントに取材したところ、」

琉球セメント（吹替）「当社の棧橋の管理上設置したもので、海に面していることから、耐塩性の強いものを設置請負業者に発注したものです。沖縄防衛局や防衛省の関与はありません。」

"デモ隊「サンゴの海を一守り抜くために」

ナレ「土砂投入を前に辺野古のキャンプ・シュワブの前には、今週も抗議活動が続いていた。」 "

金平「機動隊による座り込みの排除が始まったんですけども、相当あの、えーまあ、5、6 人で一人をこう物のように運んでいくというようなやり方ですね、えーとても、見ていて凄惨な感じがしますですね。」

"金平「こんばんは、報道特集の金平と申します。」

ナレ「土砂投入の前夜、辺野古の近くに住む渡具知さん一家を訪ねた。」

"

"渡具知武清さん（62）「もうちょっと沖縄のことを見てくれればいいけどなあ、ほんとに。もうずっと」

妻・智佳子さん（57）「沖縄よりアメリカ見ているからね。」

武清氏「そういうことなんだよな。もう。」 "

ナレ「渡具知さん一家はおよそ 20 年前から、辺野古の新基地建設に反対し、座り込みなどにも参加してきた。」

武清氏「早く、終わりたいちゅーかね、でも俺らが間違ったことはしてないとそれは言い切れるわけよ。もうあんなすぐ、あんなきれいな海があるというのに、これをどうして埋めるかというのがね、そういう気持ちがほんとに分らないよね。」

智佳子さん「こんなみんなが反対してるんだから、そのうち終わるだろうってすごく、もう思って、動いてたんですよね。だからやっぱりみんなもだんだん疲れちゃうんですよね。やっぱりあの、ほんとに全く仕事しながら、ボランティアという形で、こういう反対運動をしていると、どうしてももう、いくらやってもダメじゃって、1

人抜け、二人抜け、もうみんな全力でほんとにもう寝る時間惜しんでやって、民意を示したと、これで大丈夫、大丈夫って何回もへし折られているので、やっぱりこう、簡単にこう、引いていった人たちを責められない。私たちも。気持ちがわかるので。」

"ナレ「明日の土砂投入。現場には、いくのか。」

智佳子さん「行きたくない。あんまり。」

金平「あんま行きたくない。もう？」

智佳子さん「見たくない。」

金平「ああその現場をね。」

智佳子さん「止められるもんじゃないからね。結局。行ったって、投入するのを見てるだけで。だからやだ。」

武清氏「まあ責任というじゃないけど、ここに俺がいるんだということを見せたいし、訴えたいしね。俺そう思うんだけどな。」

ナレ「辺野古近くで生まれ育った息子の武龍さん。琉球大学の3年生になり、一人暮らしをしている。辺野古の新基地建設の是非を問う県民投票を呼び掛ける活動をしている。」

ナレ「その県民投票は、来年2月24日に実施されることになった。ただ普天間基地がある宜野湾市や、石垣市、宮古島市では反対の意見書が可決されていて、全ての自治体で投票が実施されるかは不透明だ。」

渡具知武龍さん「県民投票のこともそうなんですけど、この状況っていうのをやっぱり知ってもらいたいっていうのが、すごい最近特に、強くなってきている。」

元山氏「まあ県民投票をやって、もちろん賛成になるか、反対になるかわからないですけども、意思表示をすると、安倍政権だとか、日本政府に限らず、本当に日本人に、の一人一人に問いたいなと思ってますし。まあ答えてほしいとすごく願ってます。」

ナレ「昨日早朝、辺野古のキャンプシュワブ前には、抗議する市民たちが集まっていた。」

抗議市民「あの県知事選でも圧倒的な多数で勝っても、沖縄の民意を無視ですよ、なんかもうこれは、沖縄の人を国民としてみてない。」

"デモ隊「埋めたて反対！土砂投入許さんぞ。」

ナレ「県民投票の会で活動する若者たちの姿もあった。」

男性「この状況おかしいな一って思います。異様ですよ。」

"ナレ「普久原朝日さん24歳。大学卒業後、地元那覇に戻り、県民投票の会のボランティアに携わっている。」

普久原氏「来年の2月には、あの県民投票も控えてるって中で、こうやって急いでやるっていうのは、どうなのかな一っていうふうに思います。」

ナレ「沖縄で起きていることをもっと多くの人に知ってほしい。という思いから、カメラを向ける。」

普久原さん「やっぱり機動隊の人のなんか沖縄出身の人多いと思うし、顔を見てもやっぱああ沖縄出身だなんてわかるじゃないですか、同じ沖縄の人同士で向き合わされてること自体が、ちょっと悲しいなっていう風に思いますね。」

金平「えーすぐ目の前には見えますが、あのブルーシートで積み上げられているのが、まあ、えー今日投入されるだろうといわれているえー土砂ですね。」

金平「えー土砂投入に抗議するカヌー隊が来ましたね。今ね。1、2、3、4、5、6、7隻いますね。」

ナレ「土砂を積んだ台船は、午前9時ごろ、埋めたて予定地から2キロほど離れた北部の護岸に接岸した。」

金平「アー今、ちょうど10時45分ですけども、土砂をトラックに積み始めました。台船上の土砂を今ショベルカーが次々にダンプカーの荷台に積み始めました。あっ、1台目出ていきました。」

"ナレ「そして、

アナ「ご覧ください。トラックから、また大量の土砂が落とされました。ご覧いただけますでしょうか。」

ナレ「午前 11 時。土砂の投入が始まった。」

金平「ちょうど目のまえに止まってるブルドーザーみたいのがあるんですが、そこの前に卸して、そこからブルドーザーで押し出して、えー海中に投入しているという」

"デモ隊「県民の怒りに」

ナレ「工事が始まった後も、反対を訴える声が、収まることは無かった。カメラでその様子を記録し続けた普久原さんは」 "

普久原「無理やり沖縄の人たちのこの考えとか、民意とかを押しつぶしてこうやると、これでいいの、日本政府みたいな。逆に沖縄の反発はさらに強まるようでみたいな思いますね。」

普久原さん「県民投票あると思うし、そこもただ結果で、何割がどうのこうのって少しだけじゃなくて、その裏には、生活があって、思いがあるんだよと聞いてほしいですね。」

金平「今、ご覧のように辺野古の浜ではそれに抗議する市民集会が開かれています。参加者たちは、沖縄にとって新しい屈辱の日が加わった。投入された土砂はまだわずかだが、県民をあきらめさせようという意図的な行為だと国側を強く非難する言葉が飛び交っていました。」

ナレ「20 年にわたり、一家で抗議を続けてきた渡具知さん。仕事を終えたその足で、現場に駆け付けた。」

"渡具知武清さん「あんなにきれいな海にどうして土砂を投入っていうか、土砂を入れられることをできるいうのか、それが、わからないってのがね、」

渡具知さん「あーもう、とてもじゃないけど、私は死にきれないですよ。」 "

"ナレ「辺野古への土砂投入について、菅官房長官は」

菅官房長官「日米同盟の抑止力の維持と、普天間飛行場の危険除去。これをあわせて考えたときに辺野古移設が唯一の解決策であると、思います。」 "

ナレ「官房長官らと面会を重ねてきた玉城知事。土砂投入をどう受け止めたのか。」

玉城知事「この日本という国の政府の、決めたことに関しては、民主主義も地方自治も法治国家としての尊厳ももう何も言えないと。いうことになってしまうんじゃないかなと。思うんですね。そのことを私、あの岩屋大臣にも、官房長官にも、民主主義の危機ですよということも重ねてわたくしは言ってきました。」

"金平「なんて言いましたか？」

玉城知事「そのことについても、我々はやるんだということしか、おっしゃらないので、ですから民主主義の根本的な尊厳は国民主権ですよ。民意ですよ。民意の上に成り立たない国家って民主主義国家ってありえないわけですね。ですから、そこがおそらく、県民に寄り添うという言葉と、私たちが求めているものの尊厳の価値の違いがあるのではないかなと思って本当に非常に残念ですね。」 "

ナレ「玉城知事は政府との対話の中で、基地問題の解決策を見出そうとしてというが。」

玉城知事「辺野古のその工事をせずに、もっと早く解決ができる方法。あるいはこんなに莫大な 2 兆円余りかかるようなそういう無駄な本当に無駄なあの税金の投下をせずに、もっと早く進められるようなことを考えてもいいんじゃないですかっていうことまで、申し入れているんですね。そういうこともやりましようって言っているんですが、やはり帰ってくる言葉は、もう辺野古にこだわった言葉しか返ってこないわけです。これは私は、辺野古にこだわっているわけではなくて、アメリカにこだわっているんだと思うんですね。」

"金平「沖縄では本土の人たちに訴えたいことは今なんですか。」

玉城知事「国が勝手法律の解釈を捻じ曲げて、やるこの圧力のかけ方は、これは沖縄だけではなくて、国民の皆

さんにも必ず何かのそういう問題に遭遇した時に、同じようなことを私は国はやるのではないかと思うんですね。そのことを私は非常に危惧します。だからこそ、今ここで、国民の皆様にも沖縄で行われていることは沖縄だけの問題ではないと。いうことをしっかり見て受け止めていただいて、で、国民の皆さんにも私たちと同じように声を上げて、行動していただきたいと”

VTR をうけてスタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り返されられた。

膳場「金平さんあの、辺野古の現場はどんな様子、どんな空気感だったですか？」

金平「これね、今朝の沖縄の地元の新聞ですけれどもね、こういうふうに大きくこういうふうに報じられてるんですけどね、会場でね取材してたんですが、これみんなドローンで撮ってるんですよ。これ凄い細かく詳細に出ているでしょ。ある意味ではこれ防衛省側がですね、黙認してこう、取らせていたって側面もあるんじゃないかなと僕は思ったんですけどね。」

日下部「もうここまで来たんだから、諦めなさい見たいな、メッセージかもしないですけども、私はですね、やっぱり海がどんどん濁っていく様を見てですね、なにか本当に取り返しのですね、つかないことが始まってしまったんじゃないかっていうふうにほんとに感じました。あの沖縄の人にとっては、いかに深刻にこう、受け止めているんじゃないでしょうかね。」

金平「あの一取材した名護市の渡具知さんですね、昨日仕事終わってオートバイでね実は、あの現場に駆け付けて来たってことが、あってですね、同じようにあの、翁長元知事の奥様の樹子さんも実はいてもたってもいられないということで、現場に来てるんですよ。まあなんかね、あまりにもこう問答無用のやり方をやったんで、沖縄県民としての尊厳とか、誇りをこう踏みにじられたって思いがあるんじゃないかって思いますね。」

膳場「あの一玉城知事がおっしゃっていたように、これすべての人にとって、決して他人事ではないんですよね。」

金平「あの一辺野古の新基地というの建設してるのそもそもまあ日本が全額負担してやってるわけですね。でいま進行しているのは、長い長い 13 年といわれていますが、その工事の過程のほんの一部でしかないわけですけど、まだ埋め立て工事の地区のですね、軟弱地盤の問題とか、未解決のたくさんあって、なおかつ 2 月 24 日には県民投票いるっていうことが、あるんですけども、今のね、日本政府の沖縄に対する接し方を見てると、なにかこう民の上に国があって、為政者がいて、官僚がいてみたい形でね、なんかこう、強権政治をこう地で示してみたい感じで政治の在り方を考えるってことでいうと、まさに国民全体の問題だと思いますね。」

今回の特集では VTR で玉城知事が「国が勝手法律の解釈を捻じ曲げて、やるこの圧力のかけ方は、これは沖縄だけではなくて、国民の皆さんにも必ず何かのそういう問題に遭遇した時に、同じようなことを私は国はやるのではないかと思うんですね。そのことを私は非常に危惧します。だからこそ、今ここで、国民の皆様にも沖縄で行われていることは沖縄だけの問題ではないと。いうことをしっかり見て受け止めていただいて、で、国民の皆さんにも私たちと同じように声を上げて、行動していただきたいと」というコメントが取り上げられたり、スタジオでは膳場キャスターが「玉城知事がおっしゃっていたように、これすべての人にとって、決して他人事ではないんですよね」とコメントしたり金平キャスターが「国民全体の問題だと思いますね」とコメントしていたように、沖縄だけの問題ではないというメッセージを持った特集でもあった。

ところが、実際には VTR では沖縄の様子のみが取り上げられており、他の地域の人々の受け止めなどは取り上げられていなかった。

このテーマを「国民全体の問題」として取り上げるのであれば、沖縄の様子だけではなく、沖縄以外の在日米軍基地を抱える地域や、そうではない地域など様々な地域の様子も取り上げなければ在日米軍基地の問題や沖縄の問題も論点が明らかにならないのではなかろうか。そういう意味では「意見が対立している問題については、できるだけ多くの角度から論点を明らかにすること」という点からはやや不十分なものがあり、他の放送日との

総合的判断が必要と考えられるものであった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨
特になし

検証者所感

・【特集】土砂投入と沖縄県民の思い

いくら VTR で「国民全体の問題」というメッセージを取り上げたり、スタジオで「国民全体の問題」だと述べたところで、肝心の VTR が沖縄以外の人間そっちのけで、沖縄の様子のみを取り上げて、肝心の他の地域の国民からのリアクションを取り上げないというのに、違和感を覚えた。

他の地域の国民の反応を取り上げなければ、沖縄の問題を「国民全体の問題」として認識することも難しく、今のように沖縄の様子だけを取り上げることはかえって、国民全体の問題から特殊沖縄の問題としての印象を強めていってしまうのではないだろうか。